

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 長野県教育委員会事務局学びの改革支援課
	事業名： 令和 6 年マイスター教員研修
	研修等名： 【NITS・長野県教育委員会コラボ研修】令和 6 年度マイスター教員研修
	開催日時：令和 6 年 8 月 7 日 13 時～16 時 10 分 開催場所：長野県生涯学習センター（長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6） 参加人数（総数）と参加者の属性：（22 人） 公立小・中学校、特別支援学校教諭、大学職員 16 人 長野県教育委員会専門主事・指導主事等 6 人

目的：

学校づくりの中核を担う教員が、自身の実践を振り返ると共に、最新の知見を学ぶことを通して、自らの専門性を磨き、授業技術や学級経営等のノウハウなどの経験を若手教員に伝えるための資質能力の向上を図る。

- ・自らの専門性をさらに磨く
- ・授業技術や学級経営等のノウハウなどの経験を若手教員に伝えるための資質能力の向上



今後の実践につなげる

内容：※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。

【日程概要・講師等】

（1）【講演・演習】 テーマ「豊かな経験を活かしつつ学び続けるマイスター」
講師 信州大学学術研究院教育学系 特任教授 青木 一 氏

【実践者講演】 テーマ「『生徒の学び』の支えにつながる授業を、『これからを担う若い教師』と共にチームでつくるための心持ちや構えは、どうあるべきか」
講師 飯綱町立飯綱中学校 教諭 柳澤 友孝 氏

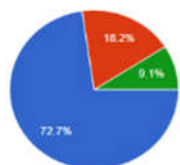
【お話 CAFÉ】

講演・演習では、これまでの教職人生の豊かな経験を生かしながら、今後も学び続けていくことの大切さについてお話しいただいた。幸せは伝播するものであり、先生自身が自分の幸せを考えることが、結果的に子どもにも幸せが伝わること、幸せは「し+あわせ」で「やりがい」「つながり」＝貢献力であること、ベテラン教師はストレスマネジメントに対するゲートキーパーとしての役割があることなどご示唆いただいた。また、自分の強みなどを生かし、これから自分に何ができるのかなどを考え、深めた。

実践者講演では、「中学校数学における「個別最適な学びを目指した T・T 形態」による単元内自由進度（深度）学習」に前向きに取り組むことで見えてきた、自身の学びほぐしや自己有用感について、今年度、若手の先生とともに実践していること、その中で感じたことなどについて、具体的にお話しいただいた。



成果：※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。



- 大変満足
- おおむね満足
- ややもの足りない
- 満足できなかった

研修後、アンケートでは、全体の 90.9%の参加者が「大変満足」「おおむね満足」と肯定的な回答をしている。また、参加者からは、「思いがけず、自分を見つめ直す機会になった」「これからの教員生活をどのように過ごしていくか悩んでいたので、今日の研修を受けて子どもたちと一緒に、ドキドキわくわくを楽しめるようにしたいと思った」

「人生 80 年となって、退職後どのように過ごしていくか、どのように貢献して生きていくのか、を考える事はとても重要なことと感じた」「思考が深まった」「教師自身の主体性を発揮していくことの重要性を改めて再確認することができた」「もっともっと自分が楽しめること、自分自身のやりたいことに注力していいんだと思うことができた」など、これから教員生活に対してエネルギー溢れる感想が出された。

また、2 学期を終えてのアンケートでは、「研修で学んだ内容は仕事や業務に生かしましたか」の項目において「生かしてみた」「少し生かしてみた」と 80%の参加者が答えている。内容・感想としては、「学級運営についてアド

バイス」「自分の時間を充実させる事で余裕ができ、子供達との向き合い方も変わった」「FIKA の導入をしてみた」「学校運営と地域貢献についてのアンケートを作成、分析してみた」などの声があった。これらの結果から、研修が参加者の実務に具体的に役立っていると考えられる。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

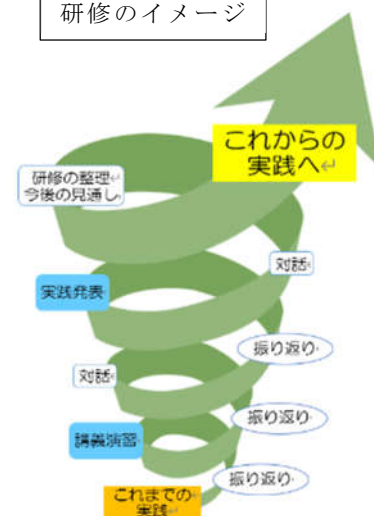
この研修では、これまでの研修の反省を生かし、次の流れ（右の研修イメージ）を大切に取り組んだ。

- ・ 講義演習、実践発表の後に、これまでの自分自身の実践を再度振り返る場面の設定
- ・ 自分が感じた思いや考えなど他者（講師や参加者）にアウトプットしたり、他者の考えを聞いたりするなど他者との対話・傾聴時間の設定
- ・ 研修後、研修全体を振り返り、研修での学びを整理し、今後の見通しをもてる省察の場の設定

このような流れに沿って行ったことで、参加者は今まで自分では気付かなかった実践の価値に気付き、自分の考えを広めたり深めたりしながら次への実践へつなげていこうとする姿や感想が見られた。また、講義演習、実践発表等研修終了後、1月末に参加者にアンケートをとったところ、授業技術や学級経営等のノウハウを再確認し、それを若手教員に伝えて共に取り組む声や、自分の強みやよさを生かして取り組んでいるという声も上がった。

上記のことから、講演を聞き感想をまとめるだけの研修ではなく、参加者も積極的に参加する形の研修、対話を用いた研修、研修後の自身を振り返り省察する場の設定が、先生方の資質能力の向上につながると考えられる。

研修のイメージ



アイディアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。



講演・演習 Well-being について語る青木一先生



これまでの自分を振り返り、自分の強みや貢献できそうなことを語り合う先生方



実践者講演 若手の先生と一緒に歩み続ける
柳澤友孝先生のお話



研修の最後に少しゆったりとリラックスした中で、研修を振り返って、「何を感じ学んだか」「何を貢献するか・できるか」などお茶を飲みながら和やかに語り合う参加者の先生方